「ﾊﾞｷﾞｵ遊学の総括」
何と言っても血圧が異常に上がったのにつきる。酒が満足に飲めず、交友の輪が広がらず、旨い料理を食べても味気なかった。
幸いﾊﾞｯﾁﾒｲﾄ（一緒に入学した仲間）が 10 人居て、割合仲が良く一緒に旅行に行ったり、食事を共にしたりして遊んでくれた
私の英語の学力の向上はあまり見られなかった。
学力の向上は人並みには望んでいるが、元々、遊学の目的は春先の花粉からの逃避であった。1 人で知らない土地で長期間うろうろしているのは、危険だし暇である。
学校に入り、英語の勉強をしていれば、ボケ防止、暇つぶし、情報の徴収、仲間との知り合う機会等があるので、3 年前よりﾌｨｼﾞｰ、ｾﾌﾞ、ﾏﾚｰｼｱと今回のﾊﾞｷﾞｵで 4 回目で、日数にすると五ヶ月以上英語圏に滞在した。しかしろくに英語は喋れない。町で何とか用事が足せるのは馴れたの一言につきる。そして通常行く場所はｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞ、食事など目的を持った場所なので、身振りと品物を指差せば、何とか通じる。英語力の向上ではない。

「学食」
この学校は土日を含め 3 食付である。授業を受けて、寄宿舎で過ごせば殆どお金の必要はない。
食堂は校舎内と宿舎内の二箇所あり、朝、晩は宿舎の食堂でとり昼は校舎内で取っていた。
食事も主食（殆どﾗｲｽ）、副食 2 品、ｻﾗﾀﾞ、ｷﾑﾁ 2 品と汁物の献立が普通である。韓国人が経営者なので韓国風の献立である。しかし韓国人の学生はここの料理は韓国料理ではないと言っているが。

係員が取分けてくれる。ﾊﾞｲｷﾝｸﾞではない

今日のﾗﾝﾁ　メイン肉団子、野菜炒め　ﾊﾑ、ｽｰﾌﾟ白菜ｷﾑﾁ、大根千切りｷﾑﾁ、ﾗｲｽ、ｽｲｶ

食堂には厨房は無く、料理した物が学校に運ばれてくる。日本で言う給食ｾﾝﾀｰの方式で

ある。
料理はﾃｰﾌﾞﾙの上に大皿に盛られ、各料理を担当の者が給仕をして行くので、各自がﾌﾟﾚｰﾄを持って、ﾃｰﾌﾞﾙに沿って進む訳である。
2 年前のｾﾌﾞの時はﾊﾞｲｷﾝｸﾞ方式で、料理が足りなくなると厨房より補足してくれた。
ここでは大体のその日の給食人数は掴んでいるのだろうが、時々終わり近く行くと殆ど料理が残っていず、ｽｰﾌﾟとｷﾑﾁでﾗｲｽを食べて事が何回かあった。その為、食堂では料理が到着する前より大行列が出来る。
味は、これなあに！いう味の料理に出会う事が時々ある。旨いとは言えないまでも、値段を考えると文句を言えない味であった。
若い日本人、韓国人の中に、朝寝をして朝食を取らず、校内の売店ｽﾅｯｸ菓子、ﾊﾟﾝ、ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝを取っていた。また夜は安いと言うので街に繰り出し夕食を食堂でとらないものを多く見かけて。栄養ﾊﾞﾗﾝｽが悪く、食費を二重に払っているので結局高く付いているのに気づいていない。
そういう私も土日は旅行に出かけ殆どとっていず、朝食は時々取らず、会合で外食多くしたので三分の二位の学食利用かな。
学生は土日は殆ど皆外出をするので、本当は土日の給食を止め学費を安くして欲しいが、学校もその点を計算して儲けているのかな。

「おかま先生」
ﾌｨﾘﾋﾟﾝはお釜が多いとｾﾌﾞに行った時聞いていた。ﾊﾞｷﾞｵでもそれらしき人を何人か見た。まさかこの学校の先生にお釜がいるとは考えられなかった。この学校は韓国人の経営で、韓国人の宗教は儒教でそれらの事は忌み嫌うと聞いていたので。
最後の 2 週間前、会話の先生が VACATION（休暇）を取ると言うので、代替の先生に代わった。
初めての授業のとき、新しい先生の話し方がねよねよして、ねっとりの感じで気持ちが悪かった。会話の授業はﾏﾝﾂｰﾏﾝで面と向かって行うので 2 週間続くのは耐えられない気がした。急きょ授業内容をﾘｽﾆﾝｸﾞに変更してもらった。ﾘｽﾆﾝｸﾞならﾃｰﾌﾟの音を聞くのが主で先生とのｺﾐﾆｭｹｰｼｮﾝはあまり無い。その時は何か雰囲気が変だと感じた。後で其の事を他の先生に言うと「彼はおかまだよ」と教えてくれた。それで納得が行った。
まさかおかまとは思わなかった。知った後は、それなりの気で授業を受けたので、そんなに気にはならなくなった。
日本のおかまは普通の人とは接触をもたず、特殊部落の感じで我々が接するのは興味本位で「おかまﾊﾞｰ」で出会うぐらいである。しかしﾌｨﾘﾋﾟﾝはおかまが世間に認められ、一般の人と普通に付き合っている。
私は常々ﾌｨﾘﾋﾟﾝの女性が外国人の 2 号になったり、日本に嫁に来たりして男性の嫁さんが不足するのではないかと疑問を持っていた。この話はまゆつばものだがﾌｨﾘﾋﾟﾝの出生

率は女性の方が男性よりかなり多いので、それでﾊﾞﾗﾝｽが取れていると聞いた。
私の偏見だが、おかまが多いことも一つの根拠でなかろうか。ﾌｨﾘﾋﾟﾝでﾚｽﾋﾞｱﾝが多いとは聞かないので。

「ﾏﾆﾗ空港の職員は腐っていろ」
ﾊﾞｷﾞｵは治安も良く、私は夜街を散策しても、危ない目にあわず、何処の店に入ってもぼられず、ﾀｸｼｰも大体ﾒｰﾀｰ通りに入ってくれた。学校の先生も町で出会った人もおおむね親切であった。学友の中には、携帯を取られたりの災難に会った者もいたが。
今まで遊学したﾌｨｼﾞｰのﾅﾝﾃﾞｨ、ﾌｨﾘﾋﾟﾝのｾﾌﾞ、ﾏﾚｰｼｱのｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙに比べて一番安全だったような気がした。ﾌｨﾘﾋﾟﾝに対して好印象を持った。
ただﾏﾆﾗ空港では不快な思いをした。ﾁｯﾌﾟの要求攻めであった。
到着時、到着ﾛﾋﾞｰを出てﾀｸｼｰ乗り場近くのﾃﾞｭﾃｨｰﾌﾘｰｼｮｯﾌﾟの前が待ち合わせの場所だった。手違いの為迎えの人と中々出会えなかった。
その辺りでウロウロしていると、親切に手助けをしてくれるという人が来るは来るは、初めは親切だと思い受応えをした後、すぐﾁｨｯﾌﾟの要求である。通りかった人から、ﾀｸｼｰの運ちゃん、空港案内人、ﾎﾟﾘｽまで色々であった。
私は一回目の人と、ﾊﾞｷﾞｵの学校の担当者に連絡を付けてくれた人に 2 回払った。
蛇足だが、海外で使用できる携帯を持って行き、ﾏﾆﾗより電話の掛け方をﾒﾓして行ったが掛け方が悪かったせいか上手く繋がらなかった。話しかけてきた 1 人に、学校の担当者の電話番号を見せて連絡をつけて貰った。これには電話代も掛かっているのでﾁｯﾌﾟを払わざるを得なかった。
帰国の時もそうだった。
出国ｶｰﾄﾞの小さなミスを指摘し、自分で訂正しようとすると全部書き直して、はいﾁｯﾌﾟ！

行く先を聞くと、わざわざその場まで連れて行ってまたﾁｯﾌﾟである。私は鴨と見られたようだ。
結局最後はフィリピン人に頼らず、案内掲示板に沿って行動した。無事帰国便に乗れた。何とかなるものだ。

「重量ｵｰﾊﾞｰ」
今回は、雲峰さんよりﾗﾑ酒の土産の依頼もあり、安いﾗﾑ酒を小瓶だが 7～８本買い込んだ。それから学友に世話になったお礼に地酒の大瓶を貰い、Teacher ｴﾙﾏより私の血圧を気遣って、向こうでは蜂蜜が良いと言うのでこれまた大瓶をお土産に貰った。
帰り支度のﾊﾟｯｷﾝｸﾞをしている時、今回は少し重いなと感じた。しかし今まで空港で重量ｵｰﾊﾞｰで引っかかった事は一回も無かったので、気にはならなかった。
しかし、ﾁｪｯｸｶｳﾝﾀｰで荷物を計ると約 6kg 近くｵｰﾊﾞであった。あせったなあ！1～2kg 程度なら手荷物に移せるのだが、6kg はチョット無理だな。超過料金を聞いてびっくり。日本円で 8000 円。やせ我慢で OK、OK と言って払った。最後に来て散在したな。
教訓：重い酒などは町で安い物を買わず、空港の免税店で買うべし、運ぶ手間も省けるし、見栄えの良い高級品を買える。
それにしても 8000 円有ったらかなりの量の土産が買えたのに残念。

「高血圧と高地との因果関係は？」
私は寒い時期は血圧が高くなる。そんなに高くは無いので、医者から貰っているのは弱い薬らしい。気候が温かくなって下がると薬は止めている。
今回ﾊﾞｷﾞｵに来るに当り薬は持ってきたが、ﾊﾞｷﾞｵはﾋﾘﾋﾟﾝの避暑地で高地で涼しいと聞いていたが、ﾌｨﾘﾋﾟﾝなので温かいと思い薬は少なめに持ってきた。
着いて日は上が 145、下が 90 位でやや高めであったが、日本に居る時とそんなには変わらなかった。その内段々上がり 150、160、170、そして一週間過ぎるとついに 180 台に突入した。あせったなあ。その間薬は飲んでいたのに。
薬が足りなくなるのと、もう少し強い薬を家内に学校に送るよう手配を頼んだ。
通常では一週間位で着くそうだが、あまり当てにはならないらしい。
心配していたが 8 日で無事着いた。
家内の添え書きで、高所では血圧が上がり易いと医者が言っていたと書いてあった。
市内は 1500M の高度で学校はいくらか高く 1700m 程度ではなかろうか。私は日本でも山岳ﾏﾗﾆｯｸでその程度の高さで過ごした事は良くあったが、特別な体の異常はかんじられなかった。もっとも血圧は測ってないので実際の数値は解らないが。
届いた少し強い薬を続けて飲んでいると、少しの間は上が 150 程度でうろうろしていた。そのうち薬をのんでも上がりだし、朝は 160 程度だが、夜は 180～190、最高時は 220 迄いってしまった。

さすが心配になり酒は会合のときﾋﾞｰﾙ小瓶 1、2 本程度に留め、普段は寝酒だけにした。その他気をつけた事は、ｷﾑﾁなど塩分の強い食物は避け、体重も増えないよう食事制限もした。そして規則正しい生活に努めた。「ﾊﾞｷﾞｵでは死ねないよ！（Never　Die　Baguio）」をﾓｯﾄｰに過ごした。
呑べいが酒を飲めなくなったら陸に上がった河童同然で、すっかり学園生活が無味乾燥になった。町で美味しい料理を食べても味気なかった。
不思議なことに、帰国して二三日過ぎると平常の血圧 123～82 程度に収まった。あのﾌｨﾘﾋﾟﾝでﾞの悪夢は何であったのであろう。
血圧と高度の関係はあるのだろうかと。図書館に行って書物を調べたが、それに関しての記事は載っていなかった。

「私の英語力」
ﾘﾀｲﾔして、さて自由時間をどうして過ごそうかと色々模索した。俳句、和歌の文学的な物や、碁、将棋などの知的娯楽的な物も考えたが、どうも今一、乗り気がしなかった。
英語は少し興味があり在職中にも勉強していて英検３級の資格を取ったこともあるので、再度始める事にした。
1 人で勉強していても、はかが行かず、ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰの英会話教室（初級）と山吹高校の生涯学習講座の英語を 2 年間受講した。山吹の講座は英語の基礎全体を教えてくれて、授業料も安く、毎年受講したい所だが、競争率が高く、この二年は抽選漏れだった。ｼﾙﾊﾞｰｾﾝﾀｰは会話主体で、日本では英会話を話す機会もないので、英会話は私はそう重要していないが、行かないよりましかと思い今でも続いている。
しかし上達しないなあ！海外（ﾌｨｲｼﾞｰ、ｾﾌﾞ、ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ、ﾊﾞｷﾞｵ）の５ヶ月の海外の英語遊学を含め４年半を経過しているのに。
その間、英検準２級、英検２級の資格は取って確実に進歩は見られるが、実際の活用場面では、上達しているように感じられない。目標の一つとして、外国映画を字幕無しで見られたらと思っていたが、始めた当時と同じくらいの理解で、具体的には会話の途中に知った単語が解る程度で、画面を見ていても会話の内容は全然出来ない。
英語の内容を 100%とすると、進歩と言っても 2～3%のたぐいでしょう。全体のﾚﾍﾞﾙは殆ど変わらないのかな。
覚える事より、忘れる方が多い年代で、耳も段々遠くなり、リスニングもはっきり聞き取れない状態を考えると無理ないな。
その上、学校へ行っても、真剣に勉学に励む訳でも無いので、当然と言えば当然である。
しかし他にやる事が無いので、時間つぶしとﾎﾞｹ防止のため続けていくか！

「煙草と文化度」
ﾊﾞｷﾞｵに来て、ﾌｨﾘｯﾋﾟﾝ人、韓国人、日本人と３カ国の人々と交流があった。

煙草の喫煙率を見ると、全体を 100 とすると男性はﾌｨﾘﾋﾟﾝ人 70～80%、韓国人はその半分、日本人はその又半分程度で 20～25%位かと感じる。
何か、文化の高さと喫煙率は反比例している感がある。ｲｷﾞﾘｽ、ﾌﾗﾝｽ、ﾄﾞｲﾂなど比較的文化の高い国も喫煙率はどうだろう。
また、この国はまだ男性の方が女性より地位が高いみたいで、女子は公の所では煙草を吸っていない。先生方にも愛煙家がいて、普段は吸っていないが、個人的に食事に行った時など吸っていた。その点日本の女子学生と堂々と吸っていた。ここでは日本の女性と日本の男子生徒より喫煙の比率は多かった。私の偏見であるが、この点では日本人は女性より男性の方が文化が高いと言える。

これで今回のﾊﾞｷﾞｵ便りは終わりです。
すべては血圧が高く、酒を控え思い切り生活をエンジョイ出来なかったのが、残念！と言うことにつきます。
来年は暖かい所だ！

最後にﾊﾞｷﾞｵで一緒に楽しい学園生活を送った人達と諸々を紹介しましょう。

ﾊﾞｯﾁﾒｲﾄ（一緒に入学した学友）

Teacher　ﾉｴﾐ　彼女のﾎｰﾑﾀｳﾝに行って異次元の生活を味わった

ﾉｴﾐの妹　彼女の持っている銃は本物かなあ？

学校のｹﾞｰﾄ（門）近くの食料品店のおねえちゃん

食料品店のもう一人のお姉さん

最初は寮室では禁酒と言うことで酒を新聞紙で包んで貰そっと持ち帰った。
しかし、馴れると酒びんむき出しで堂々とｹﾞｰﾄを通過した。

学校の先生方

フィリピンのスナック類

ノエミのホームタウンで飼っていた鶏をさばいてご馳走してくれた

教会内部　　写真には写ってないが右奥にドラム有り
讃美歌を生演奏で歌うのだ！

すべてはこのﾊﾞｯﾁﾒｲﾄ（一緒に入学した人）と始まった
コーリヤン２人が写って無いけど